

安曇野の原風景を巡る ふるさとウォッチングマップ

No.18

三郷北小倉地区

—山麓に息づく道祖神と御柱祭りの里—

安曇野市の西南に位置し、地域内の標高差が比較的大きい北小倉地区は周囲を里山とリンゴ畑に囲まれたのどかな集落です。縄文式土器が発見されるなどかなり古い時代より集落が成立していたと考えられており、現在は道祖神御柱立て祭りが毎年正月に行われるなど、伝統文化が今も大切に継承されています。

◆コースタイム ※時間は歩速3km/時としての目安です（休憩含まず）

スタート 鎮守山公園→約0.6km＊12分→八幡宮→約0.7km＊14分→鳴沢川・千国古道→約0.7km＊14分→地藏菩薩→約0.4km＊8分→下村道祖神→約1.5km＊30分→

ゴール 鎮守山公園 【合計】約3.9km：1時間18分



高低差が大きいコースですが、そのぶん眺望が素晴らしいので景色を楽しみながら散策しましょう♪

※私有地への立入はご遠慮下さい。



(c) 火の見櫓
集落のシンボルタワー



(d) 古民家のまちなみ
のどかな農村集落のたたずまい



御柱祭りの様子
元日の早朝、地区内3箇所に立てられます
(裏面コラム参照)



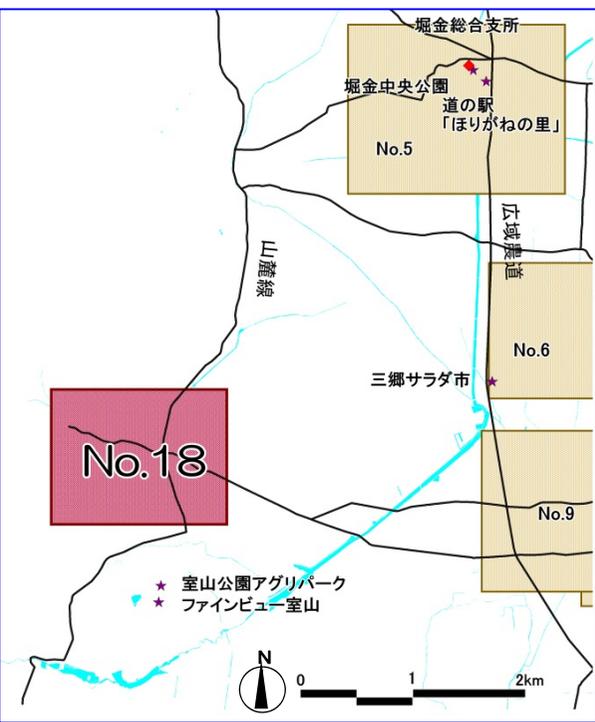
(a) 道路元標
旧小倉村の道路基点となった場所



(b) 上手村道祖神



(e) 中村道祖神
御柱祭りの行われる道祖神



編集・発行

安曇野ふるさとづくり応援団

URL <http://azumino-furusato.com>

※本マップは公式サイトからダウンロード可能です

平成26年度 長野県地域発元気づくり支援金活用事業

① 鎮守山公園

山裾にあるのどかな公園は、別の場所で中世後期に創建された浄心寺が江戸中期から明治初年にかけて在った場所です。廃寺後、小倉小学校が同地にて創立。大正11年(1922)に学校が移転した後は一時期役場の置かれたこともありましたが、現在は北小倉地区住民の憩いの広場として利用されています。

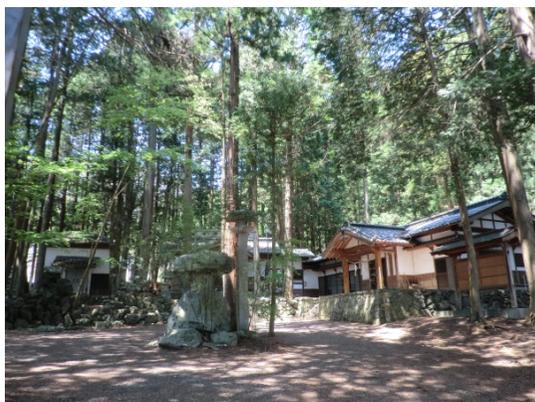
【クロマツ・カヤ・イチョウ：市天然記念物】



天然記念物のクロマツ(中央)

② 八幡宮

北小倉地区の産土神。集落の西端、標高のもっとも高い場所に鎮座しています。小倉城址の麓にあり、その関係性が推測されています。一間社流造の本殿には文化9年(1812)建立の棟札が残され、また境内には御嶽座王大権現の石碑と並んで御嶽山の修験道を切り開いた覚明霊神の石像が据えられています。



城址との所縁を感じさせる神社

③ 鳴沢川・千国古道

集落の北側を流れる鳴沢川は河川整備が強固になされてきましたが、つくれ原と呼ばれる付近では土手の石積みと石張りの施された河床に美しさも兼ね備えた土木技術を見ることが出来ます。またこの石張り河床の左岸には木立のなかを切り通された小路があり、かつて集落を南北に貫いた千国道の往時を偲ばせてくれます。



地域の歴史を伝える水路と古道

④ 地藏菩薩

集落東端、地区でもっとも標高の低いかや原と呼ばれる場所に覆い屋の中でお地藏さまが2体安置されています。古くから霊験あらたかで大勢の人々が願掛けに訪れたそうで、今でもお願いに訪れる人も多く、願いが叶った時には腹掛けや帽子をお供えしているそうです。



集落入口の分岐路

⑤ 下村道祖神

寛政4年(1792)建立。御柱立て祭りの行われる地区内三箇所の道祖神のひとつで、三体のなかではもっとも古い年代に建立されたものです。双体像は風化が進んで見えづらいますが、酒器を手にした祝言像となっています。(御柱立て⇒コラム参照)



安曇野でも古い年代に属する双体像

⑥ 一仏山浄心寺

浄土宗の寺で、本尊は天明6年(1786)造立の阿弥陀如来坐像。創建は天正6年(1578)に遡り、さらに山奥へ入った場所に建っていましたが天明年間の山火事により焼失後、天明6年(1786)に現鎮守山公園に移転。明治の廃仏毀釈で廃寺となった後、明治18年(1885)に現在地にて再興しました。

【絵馬：市有形民俗文化財】



廃仏毀釈を経て再興

⑦ 白山社

通称「中村のお宮」とも呼ばれ、北小倉のなかでも基本的には中村地区のみの産土神となっています。境内奥に水をくみ出すと雨が降る言い伝えが残る小さな池があり、昭和9年(1934)に建立された48基の石灯籠が並び杉並木の参道の様子は見応えがあります。

【屋台：市有形文化財】



迫力ある参道の様子

正月の伝統行事、御柱立て

正月の道祖神祭り、御柱立て。由来は諸説あり、同じ正月行事「三九郎」を「神送り、厄払い行事」とすれば、御柱は「歳神の降臨する依り代」であるとの説明もあります。お飾りはとても賑やかで、明るい色使いは陽気さを示し、陰気で弱気なものに憑く厄神を追い払う意味が込められているとされます。飾り付けた御柱は木遣りに合わせて引っ張り上げて支柱に固定。高さ10数メートルにもおよぶそれはまるで巨大なオブジェのようです。一度止めてしまうと復活が容易でない伝統行事を継承するのは大変ですが、無病息災、子孫繁栄の願いが込められ、地域コミュニティの拠り所でもある御柱祭りがずっと継承されてゆくことを願ってやみません。

【三郷の道祖神祭り：県無形民俗文化財】

